センチュリー交響楽団の現状と将来像

資料 1

経緯

昭和 27 年 11 月　大阪府音楽団設立（30 名の吹奏楽団、学校での演奏活動が主事業）
平成 元年 3 月　大阪府音楽団廃止
平成 元年 5 月　財団法人大阪府文化振興財団設立
12 月　センチュリー交響楽団発足（53 名、平均 26 歳、ｵｰﾃﾞｨｼｮﾝにより採用）
～以降～　現美・文情・ワッハの管理運営受託
平成 14 年４月　楽団の経営改革を効率的に進めるために財団事業を楽団運営に特化
楽員給与を１０％カット（以降、現在まで定期昇給停止）
⇒補助金 4000 万円削減
平成 14～16 年度　行財政計画 集中取組期間 ⇒ 補助金 5500 万円削減
平成 17 年７月　特定公益増進法人に認定
平成 17～19 年度　行財政計画 緊急取組期間 ⇒ 補助金 4500 万円削減
平成 19 年度　プロジェクトチームを設置し中期経営計画を検討
（素案）・社会貢献事業、次世代育成事業の充実　・モラール向上と人材確保
・自主財源の拡大　・府補助金依存率を５０％未満に
平成 20 年６月　財政再建プログラム（案）により「条件付き存続」
（一層の経営努力と府民支援スキームの構築）

現状

○ 府補助金依存率は平成 14 年度は７１％⇒平成 20 年度は５０％（3.9 億円）
○ 主な事業（平成 20 年度）
・次世代育成事業２９回　・定期演奏会及び特別演奏会１３回　・依頼公演６７回
・病院コンサート、地域でのコンサート　等
○ 府民支援の状況（H21.1.21 現在）
【定期会員】個人 657 人,法人 30 社 35 口　【賛助会員】個人 38 人 82 口,法人 36 社 54 口
【ファンクラブ】3,527 人　【ワンコインサポート】5,157,637 円（10,315 口）

国内オーケストラの平均

○ 自治体支援型：事業収入４８％、自治体補助金３３％、企業寄附７％
○ 自主運営型　：事業収入７４％、企業寄附８％、事業収入の中に企業スポンサーの協賛金
○ 平均年収（オケ連調べ）は 562 万円（43 歳）⇒ センチュリーは 496 万円（45 歳）

海外オーケストラの特徴

○ フランス・ドイツのオーケストラは公的支援に依存（収入の 70%以上）
○ アメリカは企業や個人寄附の割合が高い（34%）→ 税優遇制度が充実

センチュリー交響楽団の将来像

〔方向〕
府の文化戦略である次世代育成に特化し、府民に支えられるオーケストラとして自立的運営を行う。
次世代育成事業の実績に応じてのみ補助し、運営補助は廃止する。

⇒ 23 年度に改革の効果を検証､次世代育成事業の効果をみて府民の支持を得られない場合は府補助金廃止

〔計画期間〕平成２１年度から平成２３年度までの３年間

〔３つの改革〕
改革１　様々な子ども向けコンサートや教育プログラムを開発・実施（目標：100 回）
改革２　ファンクラブの獲得と交流重視（目標：5,000 人）
改革３　給与制度改革や賛助会員・大口スポンサーの開拓（目標：1 億円）など自立的運営に向けての取組み（目標：府補助金依存率 30%未満）

〔年次計画〕
目標

		21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
改革１	次世代育成事業の回数	34 回	100 回	100 回	100 回
改革２	ファンクラブ会員数	5,000 人	5,000 人	5,000 人	5,000 人
改革３	賛助会員・大口ｽﾎﾟﾝｻｰの開拓	0.17 億円	0.50 億円	0.80 億円	1.00 億円

（参考案）
将来像を議論するにあたり、大フィル並みの運営補助を検討。